

令和6年2月8日

長浜市議会議長 中川 勇 様

提出者 長浜市議会議員 押谷正春  
賛成者 長浜市議会議員 田中真浩  
矢守昭男

#### 議案の提出について

令和5年長浜市議会定例会令和6年2月特別議会において、長浜市議会会議規則第14条の規定により、次の議案を提出します。

#### 記

決議案第 | 号

医師派遣をストップさせないための病院経営一体化を早期に進める決議(案)

医師派遣をストップさせないための病院経営一体化を早期に進める決議(案)

地域医療構想については、平成29年3月に全都道府県において同構想が策定されて以降、長浜市議会においても代表・個人質問で当局の考え方について何回も議論が交わされており、医師の働き方改革が目前に迫り、コロナ禍での協議遅れも相まって、その後慌ただしく動き出したものです。長浜地域における地域医療構想の推進は、昨年9月市当局からこれまでの経過等も踏まえ、「長浜市病院再編方針の決定に至る経緯」が公表された以降は、議員も含め、市民皆様からもいろいろなご意見があり、特に病院経営形態の方針に当たっては、「市内の各病院がこれまで通り、健全経営に向けて努力すればいいのではないか?」「市立長浜病院が中心となって、長浜赤十字病院の救急業務も引き受けてやればいいのではないか?」「市の案では長浜赤十字病院に任せることから、市は病院業務から撤退するのではないか?」、更には「長浜赤十字病院は出て行ってもらっても良いのではないか」との、とんでもない話もお聞きしています。

しかし、今回の病院再編の一番のポイントとなっていることは、市立長浜病院、長浜赤十字病院、長浜市立湖北病院、セフィロト病院の4病院が、高度急性期(急性期)、回復期、慢性期の病院機能を担うとのことで、令和元年8月開催の「地域医療構想調整会議」で合意されており、それ以来『病院機能の再編案』の実現を目指して進められていることを忘れてはいけないと思っています。

議会でのやり取りも含め、市民皆様からもいろいろな情報が飛び出たことから、令和4年6月22日には京都大学と滋賀医科大学から要望書が市に提出され、湖北地方の病院を急性期病院一つと、回復期・慢性期病院二つに再編する地域医療構想が進まなければ、原則としていずれの診療科においても市立長浜病院と長浜赤十字病院の双方には重複して医師の配置の協力は困難であることが伝えられています。

所謂、病院の一体的な対応がなされなければ、医師の派遣は今後行わないと断言されているのです。これまで通りの病院経営のままでは、医師の派遣はないこととなります。

長浜赤十字病院の業務を市立長浜病院が引き受けて、長浜赤十字病院が不要となることもあり得ないのです。長浜赤十字病院が市外に退去されれば、現在の湖北医療圏域が湖東・湖北医療圏に変更され、病院機能再編にも大きな影響が出てくるものと思います。更に長浜市立湖北病院の改築計画にも、影響が出てくる恐れもあるものと思います。

また、病院経営の一体化については、令和4年11月から開催の『病院再編にかかる長浜市立2病院経営形態検討委員会』の報告書の中で、委員会の意見とりまとめとして「2. 具体的な時期を示しながら病院機能の再編および経営の一体化を早期に実現させること」が、多数委員の合意事項として整理もされています。

については、多くの市民皆様が一番望んでおられる、長浜市の将来に向けた安定医療体制を持続させることが大切であり、まずは「医師派遣をストップさせないための病院経営一体化を早期に進める決議(案)」に対し、全会一致で可決するべく強く求めます。

以上決議します。

令和6年2月8日

長浜市議会